たより

ユッカの会会報　第21号　平成21年12月19日（土）発行
横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2 かながわ県民センター12階
かながわボランティアセンター（情報コーナー）内　ユッカの会代表　沼波万里子

心豊かに・・・

沼波　万里子

横浜の中心街日本大通りが銀杏の落葉で埋め尽くされ、2009年もあと僅かな日を余すほどになりました。

冬とは申せ、店頭には夏野菜のトマト、胡瓜が並び、温室咲きの花々が花屋の店先を色どり、季節感も次第に失われてゆく昨今でございます。

日本の政界も与野党が交代し、大きく変動しつつあります。戦後六十余年、戦時の体験者も次第に少なくなり、私の知人の多くも老衰、他界され、何かとり残されたような感がいたします。

そうした中で当ユッカの会が、かつて中国から帰国された方々をお迎えした時より、ずっと変わらぬ活動を続けて今日に至っている事は本当に素晴らしく、こうした事業に携わっておられる各位の熱意、ご厚情に対し、まこと言葉に尽くせない想いでございます。

当時は何度も訪中して、日中両政府に陳情し、様々な活動に奔走しました私も、現在は年老いて自身を保つのが精一杯となりました。でも、当ユッカの会を大切に思い愛する気持ちは少しも変わる事はありません。そして戦時の経験のない若い方々のご協力を何より有り難い事と思っております。

今は世界中が不況の時代ですが、戦時の困窮に耐えてきた私共世代の者にとっては何ほどの事でありましょうや。

冬来たりなば春遠からじ･･･今後も気持ちを一つに心豊かに乗り越えてゆこうではありませんか。

あれはもう歴史の中のひとこまか
　　曠野に仰ぎし月赤かりき

葉が落ちて初めて新芽育つとふ
　　散りそこねたる身をば慎む

（ユッカの会代表）

わが町のたからもの
「大神輿（おおみこし）」

大石　俊雄

１．千貫みこし

横浜市内には、数多くのお神輿が神社、仏閣から町内会館、自治会館などに保管され、祭礼時に巡幸されているが、わが町の氏神様のお神輿は昭和9年（1934）に製作され、「千貫みこし」とも呼ばれ、その大きさ、重さ、荘重（そうちょう）さ等横浜随一の大神輿として有名である。二輪の御所車に固定されており、私の子供時代は二頭の牛によって氏子町内をめぐり、現在では専用の牽引車によって氏子内を丸一日かけて巡行されている。

恐らく今までに人にかつがれたことはないし、また重すぎて担ぐことが出来ないのではないかと思っている。

[注] 貫：昔の目方の基本単位（1貫は3.75kg）

その神社は日枝神社、一般には「お三の宮　日枝神社」と呼ばれ、横浜開拓の守り神、関外総鎮守として毎年の九月例祭には、氏子町内を神社大神輿が巡幸、さらに奇数年毎の本祭りでは、約50基ほどの町内神輿が神社から伊勢佐木町へと威勢よく練り歩き、この連合渡御は市内屈指の規模を誇っており、「神奈川の祭り五十選」にも選ばれている。

残念なことに、平成21年9月の例祭では、不況、かつぎ手がいないなどの理由で不参加の町内もあって神輿は30数基に減少した。

２．日枝神社

中区伊勢佐木町から神社までは、かつては釣鐘の形をした入海でしたが、江戸幕府をはじめ各大名のご用達として広く石材木材商を営んでいた吉田勘兵衛良信という商人がこの入海を埋め立て、新田を築き、寛文13年（1673）9月10日に新田の鎮守として江戸の山王社より分霊を譲り受け、創建されたと記録されている。

伊勢佐木町一丁目の入口には、吉田橋があり、通称「鉄（かね）の橋」とも言われ、トラス構造といわれる工法では、日本で最初に出来た鉄の橋として有名、史跡「吉田橋関門跡」の石塔が立っている。

安政6年（1859）の開港直後に今の吉田橋がかけられ、橋に関門を設けて外国人の保護、取り締まりを行い、この関門即ち関所を境として、海側を関内（関所の内）、伊勢佐木町側は関外としていたが、

今では関外と言われることは少ない。

この関外地区の中に氏子町内があって、伊勢佐木地区、宮元地区、寿東部地区、埋地(うめち)地区の四つの地域の中に45の氏子町内が存在し、私の住んでいる町も伊勢佐木地区の一角にある。

伊勢佐木町の入口の横には、「吉田町」もあって勘兵衛の子孫による会社も盛業中である。

３．お三の宮

今では、日枝神社よりもお三の宮、お三さまと広く親しまれ、崇められている。

古くは山王社、山王大権現といわれ、これがおさんの宮と転訛(てんか)したとか、「お三」という女性が夫の仇を討ちたいと諸国を流浪(るろう)し、勘兵衛宅に身を寄せていたが、埋め立て工事が、大雨による川の氾濫などで不調の連続を目にして、お三が波打ち際（現神社裏手）より白衣に身をつつみ合唱して海に身を投じ、埋立の大事業完遂の人柱になったことから名前がついたの説も記録されている。

本年亡くなった先代宮司の子息が第13代宮司を継承、世襲により現在まで13代続いており、平成21年（2009）10月に、盛大に宮司就任祝賀会が開催され、発起人代表として勘兵衛の子孫の挨拶をはじめ、各界からの祝辞もあった。

生まれも育ちもハマで、その間転勤などで10年以上もハマを離れていた私は、生粋(きっすい)のハマっ子ではないかもしれないが、一年に一回拝むことが出来る巡行の大神輿は忘れることは出来ない「わが町の宝物」である。（横浜教室・ボランティア）

三浦半島の旅

朱 暁兵

10月18日にユッカの会が開催した三浦半島へのバスハイクに参加して、会の日本語の先生たち、学生たち、家族と一緒に楽しい旅ができました。

バスは朝8時半ごろ出発しました。バスの窓から外を覗くと、青い空に白い雲が浮かんでいます。バスの中はちょっと暑かったです。家の子供は妻の友達の夏さんの子供と同じ2年生です。子供たちは初めて会ったのですが、すぐ仲良く遊んでいました。私も隣の席の宮入先生と仕事の事とか中国の事とかいろいろ話しました。話に夢中になっていると、いつの間にかバスはもう最初の予定地の油壺のマリンパーク水族館に到着していました。

水族館の正門のところに長さが50センチぐらいあるサメが5、6匹います。内陸育ちの私にとって本物のサメを見るのは初めてでした。サメとは大きくて人間を食べる程の凶暴な水中王者というイメージがありました。でもこんなに小さくて、肌触りまでも危なくないサメチャンは印象と全然違います。正門をはいると、いろいろな種類の魚たちと

出会いました。イメージ通りの大きなサメ、数十万年前に既に地球上に生存していた珍しい種、ヤモリのように壁面も登ることができる小さな魚等、いろいろいます。大きいのも、小さいのも、皆仲良く行列して泳いでいる様子を見続けていると、まるで自分も本当の海の中で生きている一匹の魚のようだという感じがしました。「そろそろイルカショーが始まるよ」隣の先生の声が聞こえました。「あ、そうだ、イルカショーの時間だ」こう言いながら、海から脱出して、急いで次のイルカ館に追い掛けました。いよいよイルカショーの開幕です。四匹のイルカはトレーナーの目の前のプールに並んでいました。トレーナーが手で合図を出すと、イルカが速いスピードでプールを一周して、水面から飛び上がり、ハイジャンプしました。四匹のイルカはそれぞれ独自の芸を持っています。空中回転とか、高跳びとか、空中にぶら下げたボールを口先でタッチするとか、いろいろな芸を見せてくれました。

次にかわいいアシカチャンが登場しました。トレーナーの指示でボールなどを取りに行きました。前足で歩いて、歩いて、つるりと滑って、ちょうどよく、スタンドの上に載

っている物の処に到着しました。すると、鼻先で置いてあるものを取って、バランスよく歩いて、やっと戻りました。いい子ですね。それから、輪投げゲームでした。アシカチャンが投げられた輪を首で受け止めるゲームです。一…二…三、トレーナーがだんだん遠くに立って輪を投げました。何とか全部受け止めました。そうすると、アシカチャンは前足で拍手の様子をまねて観客たちに拍手を呼びかけました。可愛くて堪らないから皆は大きな拍手を響かせました。本当に最高のショーを見せました。

水族館で楽しい時間を過ごしました。それから、三浦半島の一番先である城ケ島に行きました。評判のマグロの刺身の昼食を食べてから、近くの海岸を見物しました。海岸の岩の上で、目の前のきれいな海の景色を眺めたり、写真を撮ったりしていました。その後、次の久里浜花の国に行って美しいコスモスの野原で遊びました。きれいな花の写真をいっぱい撮りました。園内の冒険ランドは子供たちの楽園です。大きなゴジラの滑り台など、いろいろな遊び場がありましたから、子供達はぎりぎりの時間

までそこで遊びました。

それから、最後の目的地三笠公園に出発しました。到着時間が遅かったので、残念ながら日ロ戦争時代の軍艦を見学できませんでした。でも公園を一周していたら、ちょうど公園の音楽噴水が始まる時間で、音楽を聴きながら、水の踊りを見ることができたので良かったです。

そこで一日の楽しい旅が終わりました。本当にいい思い出になりました。（横浜教室・学習者）

この夏の経験

中村　明子

ことの始まりは4月の末頃から始まった右膝の関節の痛みだった。左膝はこの数年来「変形性膝関節炎」で時々思い出したように痛むので、近所の整形外科に通って注射やら電気治療をしながら何とか生活に支障のない日々を過ごしていたので、ついに今度は右にも来たかと、かかりつけの整形外科に通い始めた。ところが左と同じような治療を受けているのに何故か痛みが治まるどころか次第にひどくなってくる。とうとう7月になって大きい病院で診てもらえといわれ、二つばかり大病院を紹介されたが診断結果はやはり「変形性膝関節炎」とのこと。かりに手術するにしても1ヶ月先になるといわれた。もうその時点では痛みは我慢ならないほどになっていたので1ヶ月なんて到底待てなかった。幸いボランティア仲間の日向さんが近くの病院を紹介して下さったので、そこでMRA診断を受けた結果、関節が壊死していることが分かり人工関節置き換え手術することになってしまった。緊急を要するということで1週間後に手術をしていただけたが、手術が怖くてかかりつけの整形で何とかしようと我慢をしてきたのに、こんなことならもっと早く手術をすればよかったと後悔したが、いまさら仕方のないことだ。

入院なんて二男のお産のとき以来だから40年ぶりだ。病室は80代一人、70代二人、40代一人の4人部屋。老人3人はいずれも関節炎の膝の手術、若い人は怪我による膝の手術だった。術後の経過は良好で、何より夜も眠れないほどの痛みから解放されただけで病院がまるで天国のように思えた。「術後の治療もリハビリもあの痛みに比べればどうってことないさ。一体私は何を怖がって手術をためらっていたのかしら」というのが入院1週間の感想だった。ただ、車椅子には手古摺った。老人ホームでのボランティアで押したことはあるが、自分が使うのは初めてなので要領が分からず非力な私はなかなか前に進めない。すぐ腕や手のひらが痛くなる。更に曲がるのが難しい。車の運転が出来ない私はどうすればうまく曲がれるかコツが掴めなくて、やたらに腕に力をいれて無理やり曲がろうとするのでますます疲れる。手術した右足は板で固定されているので、あちらにぶつかりこちらにぶつかり、狭いトイレで方向を変えられ

なくて出ることが出来ずSOSを発する始末。ようやく手なずけられたのは2週間もたった頃からだった。

私の病室の318号室はめっぽう明るい雰囲気で、とくに先から入院していた先輩の二人はとても愉快な人たちだった。二人の掛け合いを聞いているとまるで吉本興業のようで、一日中笑ってばかりいた。外科病棟は回復の経過がはっきりしているので概して明るいのだが、318号室の大笑いは病院の先生方のなかでも評判になっていた。お陰で1ヶ月の入院生活も退屈せず、読むつもりで持っていった数冊の本もほとんどページをめくらずに持ち帰ることになってしまった。

自分の心づもりでは3週間もすればもう以前と同じように歩けて、退院できると思い込んでいたのだが（これは以前に見たテレビからの先入観に過ぎなかったのだが）現実はもう少し厳しいものだった。2週間過ぎて部屋に歩行器が運ばれてきたとき、これであの厄介な車椅子に“おさらば”出来ると、早速それを使って病院中を歩き回ったところ、翌日には膝が熱を持って赤く腫れ上がってしまった。リハビリの先生からまだ許可したわけでもないのになんと無茶をする人かときつーいお叱りをうけて歩行器は当分使用禁止となった挙句に、要注意の患者というレッテルを貼られてしまい、いまだにリハビリのたびに「くれぐれも無茶をせぬように」と言われ続けている。

入院したばかりのときは「3食昼寝つきの結構な毎日で、食事も自分で作らなくていいのだから当分いさせて貰おう」と喜んでいたのだが、人間とは勝手なもので、3週間もすれば薄味の病院食と代わりばえのしない献立にもだんだん飽きてきて、テレビのグルメ番組を見ては、4人で「あーあー、早くここを出て食べに行きたいねえ。」とぼやきばかり。退院したら真っ先に何を食べるかでまたひとしきり盛り上がるのだった。

それやこれやで、遠くてリハビリに通うのも大変だからあと2週間は居たらどうかとの親切な病院のお勧めを断り、毎週2回はリハビリに通うとの条件付でとうとう1ヶ月で退院にこぎつけた。長いような短いような入院生活だったが、考えてみれば夏の暑い盛りを冷房完備、3食食事つきの優雅な暮らしを送れたのもまあ悪くはない経験だったかしらと、40年ぶりの入院を振りかえっての正直な感想である。皆様には大変ご迷惑をおかけしましたが、真面目にリハビリに努め日々回復にむかっておりますので、まもなくまたご一緒に仕事が出来ると思います。（横浜教室・ボランティア）

先生から教わったこと

夏　永艶

今年の3月、私が昔習っていた日本語の先生、山木先生が突然亡くなりました。一度も話したことのない息子さんから訃報

を聞いたとき、あまりの驚きで頭が真っ白になりました。気がついてみれば、涙が止まらない状態でした。いつも優しい笑顔で素朴かつ清楚な身だしなみをしていた先生が65歳の若さで、この世を去ってしまいました。

この世での先生と最後のお別れをしようと思って、前夜祭に参列しました。神父様のお話を聞いて、改めて自分が何も知らなかったことが分かりました。先生は30年前ご主人が飛行機事故で亡くなって以来、一人で仕事をしながらお母さんの看病と2人のお子さんの子育てを続けてきたことを初めて知りました。大変な苦労を経験したのに、自分の不幸を一切他人に漏らすことはありませんでした。さぞ辛かった事でしょう。それなのに、ボランティアとして私のような言葉さえ困っていた外国人のために、力を尽くしていました。振り返ってみると、自分と家庭のことで頭がいっぱいになっていた私は、知らず識らず他人から恩恵を受けていたことへの感謝の気持ちを忘れていました。これを機に、当時の記憶が蘇ってきました。

私は日本に来て言葉が分からない歳月の中で、新鮮さと伴に寂しさと恐怖感が並存していました。このような時2歳の娘を連れて日本語教室に通うことが一番の楽しみでした。この頃は何時も緊張の中、片言の日本語で何を言おうとしているのか、何を言っているのか自分でも分からない状態でした。しかし、山木先生と出会って、いつの間にか心の中の不安が消えていました。山木先生は長年英語の教師として勤めてこられました。日本語の教養は高い上に教え方も優れていました。これに限らず、私たちと接していた時いつも親切な態度で深い配慮をくださいました。よくあったことは娘が同じ机で絵を描いたり、本を読んだりしているのを見て、先生は授業をしながら、娘に声をかけて、紙や鉛筆などの文具を出して下さいました。息子が生まれる前に、先生から「安産御守」というお守りをいただいた時の暖かいお気持ちは今でも忘れられません。韓国人の生徒のうちへ一緒に行った時、先生の炊かれた筍ご飯はとっても美味しく思いました。先生は足が悪くなったので、ボランティアを辞められましたが、私たちのことを気に掛けてくださっていたので、連絡を取り合っていました。その間、私が家の転居や仕事などのことで悩んでいた時、先生が何度も「いつかまた会えたらいいな」とおっしゃってくださいましたが、結局再びお目にかかることはできませんでした。悔しい気持ちの中で、人生の生き方について考え始めました。

今の利益を得ることだけを追っている世の中で、先生にとって、私たちと接することは決して得になることではありませんでした。2人のお子さんはもう立派な大人になっていたし、先生への愛情も深く、先生はきっと豊かな生活を送っていたはずです。私たちに日本語を教えることは自分のためではなく他者への思いにほかならなかったに違いありません。

私は10年ぐらい日本にいる間、たくさんのボランティアたちと触れ合ってきました。中には山木先生のような学識豊富そして品格高尚な方も数少なくありません。私はずっと恵まれていたことを今改めて気付きました。ボランティア

たちによって、たとえ一人の力は小さくても、みんなの力を合わせたら、社会はいい方向になることに繋がります。

今もう一度山木先生に心から「ありがとう」と言いたいです。日本語だけでなく、人生の生き方も教わったからです。（横浜教室・学習者）

中国の結婚式

吉松　莞爾

皆さん、こんにちは。私は現在横浜教室で来日中国人企業研修生の日本語学習のお手伝いをしている吉松と申します。退職後の趣味といいましょうか、有り余る時間の有効な過ごし方とでも申しましょうか、中国語学習を開始後今年で7年になります。が、しかし老齢かつ音感（？）が悪く、年季の割には全然進歩が見られません。でも、くじけずに頑張っております。

中国語老師は現在で三人目、皆さん何れ劣らぬ優秀な方達で、今回のテーマの主人公である二番目の老師は白丹さんという遼寧省瀋陽市ご出身の女性、今年3月東京工業大学大学院修士課程修了後IBMに就職され、社会人としてのスタートをしたばかりです。4月に教え子主催で卒業ならびに就職祝いをした際、9月に結婚した相手が学習仲間との発表があり、三重のお祝いに宴は大変盛り上がった一方、陰でソッと涙を流した人も･･･。

ご招待を受け結婚式出席のため9月18日から21日までの間、大連経由で瀋陽に行って参りました。偶々、シルバーウィークだったこともあり、瀋陽直行便のチケットが入手できず、やむを得ず大連一泊となりましたが、結果オーライで市内観光や旅順まで足を伸ばしての二〇三高地や水師営観光など、実に充実した滞在となりました。

大連から瀋陽までは「特別快速」電車で約4時間ほどです。3年前にも同じコースを辿ったことがあり、その時は残念ながら車内での中国の方との交流の機会はありませんでしたが、今回はカタコトながら会話の機会が持てました。皆さんの関心事は中国語学習開始の動機でしたが、「暇つぶし」とも言えず、「中国歴史」に興味ありと答えました･･･ゴメンナサイ

さて、本題の結婚式についてですが、老師教え子の出席は日本から5名、北京から1名の計6名、披露宴会場は瀋陽北駅に近い「杏花村」大酒店、出席者総勢150名以上のとても盛大な披露宴でした。なんでも瀋陽市長も出席されていたとか（未確認情報ですが）。宴会開始時間は午後3時28分、縁起の良い数字「八」に拘っている

ようでした。

ところで、日本の結婚式披露宴との相違点を感じたのは次の2点です。

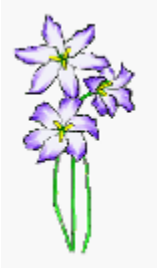
1. 殆どの出席者が平服というか普段着のままで、正装しているのは我々日本人のみ。

2. 勤務先上司や友人等のスピーチ無し（スピーチしたのは教え子代表としての私だけ）。

あと、一斉に「お開き」にするのではなく、円卓毎に自己の都合で散会していたことも印象に残りました。帰国後、現在の老師に伺ったところでは、スピーチの有無はケースバイケースとのこと。特に今回のように国際結婚で当事者が日本在住、かつ日本企業奉職中で、改めて日本でも披露宴を実施するような場合、会社関係のスピーチ無しは当然としても、友人等のそれも一切無いのは全く意外でした。

また、祝儀袋を敢えて日本から持参し、験を担いで800元ほどお包みしたのですが、袋表面の「寿」は結婚式に相応しくないらしく、所変れば品変るで、まさに「入郷随俗」、何かと得ることが多かった初体験でした。

なお、瀋陽で色々と我々のお世話をして頂いた新婦のご両親が、11月に日本で披露宴ご出席のために来日され、ささやかながら歓迎会を関内の中華料理店で実施致しました。（横浜教室・ボランティア）



山西省へ

川俣 孝善

今年9月、山西省平遥へ旅行に行きました。実に11年ぶり、2回目の山西省です。

山西省平遥は、明代の城壁が今も残る古い町で、97年に世界文化遺産に登録されています。

もともと98年12月、世界文化遺産に登録されたばかりの平遥古城へ行くつもりでした。しかし、その時は事情があって、行けなくなってしまったのです。

当時、北京に留学していた私は、まず中国仏教四大聖地のひとつである五台山へ向かいました。五台山に2日間滞在した後、バスで山西省の省都：太原へ下り、そこから平遥へ行くつもりでした。ところが、私のルームメイトが、高熱を出して病院へ行ったというのです。私は高速バスに乗り、7時間かけて学校へ飛び帰ったのです。幸いにも、彼は病状もそれほど重くなく、一晩入院しただけで済みました。

それ以来、10年以上の月日が流れました。山西省は遠く、仕事の都合で、長くても4日間しか休めない私は、「当分行けないだろう」と思っていました。ところが、今春から北京～太原間に高速列車が走り始めたという朗報を耳にしたのです。そうして、今回の旅が実現したのです。

9月8日、北京行きの飛行機に乗り、中国へ向かいました。2年ぶり4回目の北京

です。

太原行きの高速列車には北京西駅から乗ります。最新型の特急列車はまさに中国版新幹線です。太原まで約3時間です。10年前に乗った中国の列車と比べると変化には驚かされます。

中国がどんどん発展して行くのを見聞きして来ましたが、実際に体験すると、その発展のスピードを実感します。それを象徴するかのように、列車は太原に向けて時速200km以上で走ります。列車に乗ると、改めて中国の広さを実感します。北京の郊外を向けると、一面のとうもろこし畑が広がり、地の果てまで続いています。日本ではなかなか目にかけることのない風景です。

太原からは車で平遥へ向かいました。太原に着くころにはすっかり日も暮れて、平遥に着いたのは夜8時ごろでした。ここに2泊しました。

今回泊まった宿は、古民家を改装した旅館で、設備はあまりよくありませんが、とても趣のあるいい宿でした。

2日目はいよいよ城内の観光です。宿の前の道は石畳で、古い町並みが続いています。

平遥は、今でも城壁が完璧な形で残る、城壁都市です。城壁は高さ約10m、周囲約6km。煉瓦造りの城壁や城門にはさまざまな工夫がされていて、強固な造りになっています。城壁の中は景観保護のために3階建てまでしか建てられなく、車の乗り入れも制限されているそうで、タイムスリップしたかのようです。まるで、町全体が博物館のようです。

たったの数時間でしたが、町の中をあちこち散策して回りました。昼食を食べた後、郊外にある「王家大院」へ行きました。民間の故宮と呼ばれる、山西商人のお屋敷です。15万平米もあるそうで、その広さもさることながら、建物に施された様々な彫刻にも驚かされました。こんな広い屋敷で迷子にならないものかと思うくらい広くて立派でした。

翌日には平遥郊外の双林寺と鎮国寺、晋祇を見学し、北京へと帰りました。

たった4日間でしたが、新しい中国と古い中国二つを同時に体験でき、充実した旅行となりました。（戸塚教室・ボランティア）

金尾魚（きんおぎょ）

員 琳蓉

横浜市の保土ヶ谷区には、帷子川が流れています。その上に架っている帷子橋の下に、沢山の鯉が住んでいます。毎日毎日、彼たちは其処で会議をしているかのように集まっています。橋の下はまるで競走の終点で、彼らは競争してここに来たいと思っています。鯉たちは楽しそうにしっぽと身体を自由自在に左右に揺らし動かして、頭を水面から出したり、水中に潜らせたりして、疲れを知らないように、寝ていても目を開けています。

鯉の中で、最も多いのは黒い鯉です。彼らはそれぞれ丈夫な黒い戦士のようです。たまに赤色のもいて紅白交互の身体で、まるで真っ赤なバラの間に一本の白い絹のリボンが漂っているようです。この一、二匹の赤鯉は明るく美しい肌色のため、人々の目を引き、橋の下の宮殿のクイーンと言える程です。

鯉たちは、昔から鯉が竜門を跳び越えるという伝説を聞いたことがあるようで、帷子橋の下を竜門とし、竜に成りたい鯉らは遠くからチャンレンジしにやってくるのでしょう。毎年、帷子川には沢山の大きくなった鯉らが、橋の下に泳ぎにきます。

一匹の鯉がいて、彼は頭と胴体が黒く、しっぽだけは赤色なのです。太陽が当たると波の反射で金色の光を出します。しかし彼は自分のしっぽが見えなくて、そのしっぽはどんなに珍しいかということを知っていません。いつの間にか彼は大きくなって、帷子橋は勇士が挑戦する聖地の一つだと聞いたのです。そして、彼は其処に行こうと決心しました。でも、出発して、気がついてみたら他の帷子川の住人達は彼を可笑しな目で見ています。「へっへっ、ちび、どうして尾を染めたのさ、男とも言えず女とも言えない」カメは彼に批判しています。「君は日向ぼっこのしすぎで、尾をあぶってそのようになったのだ。」かもも理解せず聞きました。一匹の黒鯉も彼に「我々黒戦士群に君のような怪物はいない。君は橋に行っても意味がないわ。諦めた方がいいよ」と嘲笑し、彼に橋に行く考えを取り止めさせたいようです。「そうだよね、僕の尾は一体如何なっているのだろうか」彼は最大の力を振り絞り、尾を前に回すようにし、精一杯やり、最後尾まで見届けたかったのです。彼は自分の尾を見られなくて、がっかりして、以前の水域に戻ろうとしました。しかしそこは既に小さな魚の一群に占領され、もし帰ったら、間違いなく彼らに大笑いされ、彼は橋に行く勇気がなかったと言われます。彼はこう思い付きながら、再び精一杯の勇気を奮い立たせて、橋に向って泳いでいきました。

川水は清らかで、太陽が光を川の表面に撒き散らし、青空には白雲が漂っていたので、彼は背中に快適な風が乗っ

ていると感じ、追い風に押され、泳ぐのが更に速くなりました。この時、大きな影が襲ってきて、彼がその巨大な影に入りそうになった時、突然一人の男性の呼び声が聞こえてきました「そこ、見て、金尾魚、珍しいな。めったに見られないね。大きいパンを一枚投げてあげて、、、」「本当だ！金尾魚だ。早くあげて、可愛い～。」隣の小さい男の子が喜んで跳んだり跳ねたりしています。その時、鯉達の頭一面にふんわりしたものが落ちてきました。白くて香りがあります。彼がまだ何も分かっていない時、そばの沢山の先に来ていた黒鯉達に囲まれ、気がついたら、皆は彼の近くのパンを奪い合っていました。

これまでは、彼らは橋の下で食べ物が上から落ちてくるのを待っているだけでした。人が橋の上に立ちさえすれば、彼らは集まってきて、口を大きく開けて、眼は上を見回します。しかしこの動作を何回繰り返しても、通行人達は彼らの水泳での美しい姿勢に引きつけられず、ただ見るだけで急いで行ってしまいました。「よかった、これからは、君がいれば、俺達もパンを食べられるようになる。」「君は達人になったよ。」「これまで俺達君を見下して、申しわけなかった、これから、宜しくね。」鯉達は銘銘金尾魚と友達に成りたがっています。

金尾魚は「金尾魚」と呼ばれるのを初めて聞いたのです。彼はついに自分の尾の色を知り、とても自信を持ちました。彼が皆の仲間の一員になり、その上非常に重要な存在になったと思い、皆如何して橋の下に来たかという事も理解し、自分には能力があると気付きました。彼は、お日様の神光がしっぽに集まり、彼に不思議な力を与えてくれたと信じています。全ての鯉もこれを認めました。

ある可笑しく見える物事或いは通常通りではない物事を軽蔑してはいけないのです。他人から見てその小さな欠点は、人間が先に行って伸びる所かもしれません。自分と他人のぱっとしない処を見下さないでください。それはいずれ力になり、将来に向け輝く光を放つでしょう。（横浜教室・学習者）

楽しく学ぶ

森　詔子

私がユッカの会に加入し、滞日外国人の日本語学習を始めたのは昨年の2月でした。教師の資格もない身で、きちんと教えられるのか、文法は大丈夫なのか、様々な心配持ちながらも、コーディネーターの方の「教科書も教え方も自由にしていいですよ。日本で生活する上で、困らないよう手助けすることで充分ですよ。」のアドバイスに少しホッとして、この秋4人目の学習者と“楽しく学ぶ“をモットーに、あらたなスタートを切りました。

言葉を教えるということは、同時に日本の文化や歴史、世間の諸々の出来事を、学習者が理解できるように伝えることでもあります。それには、自分がもっと日本を学び直し、勉強ばかりでなく、日本の美しい風景、楽しい行事、日本人の心情なども伝えたい。そして、学習者が帰国してからも、日本で生活した日々が良い経験となり、思いで深いものになるよう願って、今後も楽しく、時には耳の痛いことも言い合い、ともに学んでいきたいと思う。（横浜教室・ボランティア）

中国再訪

塙　雅夫

手元に14年前上海で撮った写真がある。もう建設ラッシュが始まっていて、何枚かの写真からその様子が窺える。その年の6月、私は停年退職したばかりで身の振り方が決まらず、うっかりすれば路頭に迷う恐れさえあった。そんな折中国人の先生に勧められ成都へ遊びに行く。上海へはその往復に立ち寄った。この旅行がきっかけで、なんども中国を訪れ、ユッカのお手伝いもするようにもなる。写真はその時のものだ。

今年7月、高校時代の友人に誘われ久々に上海へ行った。戦後、東京や大阪の復興が凄まじかったように経済発展に伴う都市の発展には目をみはらせる。なにもかもが一新され、短期間に近代都市に変貌しつつある。高層ビルが乱立し、建設中のものも少なくない。空港まで高速鉄道が走り、市を取り巻く高速道路網も進んでいる。モダンなショッピングセンターにも目を奪われた。

勿論いいことばかりではない。かつて散策を楽しんだ黄浦公園は明年に迫った万博の工事で立入禁止。古い街並みがもっていた情緒もすっかり影をひそめた。外灘を歩けばわかるように元々上海は欧米に向かって開かれた街で、中国風は影が薄い。四川で一緒だったアメリカ人の青年が「ここは中国じゃない」と切って捨てるように言ったのを今も覚えている。

だからと言って近代化を否定するのは愚かだ。私がちょくちょく中国へ行っていたころでさえ、北京や上海のような大都市には交通信号はあった。だが信号が赤に変わっても自動車は言うに及ばず自転車、人も一向に止まる気配をみせない。そのせいで慣れぬ外国人は道路を横断するのにいつも苦労した。当時の印象が強かった反動かもしれぬが、今回、車のマナー向上には驚かされた。確かにまだスクーターや自転車にはルール違反をするものが少なくない。だが車、特に乗用車は明らかによくなった。

都市の整備が進んだ結果だろうが街角のゴミも減り、街全体の不潔感も消えつつある。

人の行儀もよくなった。ホテルでエレベーターを待っている折、7、8人の若い中国

人グループが列に割り込んだ。以前なら喧嘩になりかねぬ場面だが、列に並ぶ他の客の注意をおとなしく聞き後方へ回る。あるいは上海という外国人の、観光客が多く集まる街の特殊事情かもしれない。しかし北京オリンピックや明年に迫った上海万博で多くの外国人が訪れ、中国社会とは異なるスタンダードに気づいたのだろう。そしてその理解が中国にとってもプラスになることを知った。

先ほど私は乗用車とホテルのマナーがよくなったと書いた。中国の経済発展は目覚しい。それを支えている中に中産階級の躍進があると思う。貧困は人間を逞しくするが、人間性を成長させることはできない。衣食が足りてこそ礼節を重んずるのだろう。社会全体が大人になるにはまだ時間がかかるかもしれない。だが街のそこここで予兆をみたような気がする。

ところで白状するが、今回の中国行きは街の視察でもなければ中国語の復習でもなかった。

5月の中旬「皆既日食をみに行かないか？」と友人に誘われた。彼とは高校時代一緒に望遠鏡を覗き星雲をみたり、流星を眺めたりした。しかし卒業後は会う機会も少なくたまに会っても共に星をみることはなかった。それでも年賀状で彼がマウナケアを訪ね、夜空への関心を持続させていることは知っていた。私も東南アジアやオーストラリアへの出張する折には双眼鏡を携え、日本では観測不能の南天の星や星雲を追った。だから今でも天文ファンの端くれだと思っている。天文に関心のあるものなら誰だって一度は皆既日食をみたい。まして中学生の頃、礼文島の日食観測に参加した教師から話を聴き自分の夢になっていたのだから。

一度、宇宙や天体の魅力にとりつかれたら悪魔に魅入られたようにその呪縛からなかなか逃れられない。

暗い空に輝くダイヤモンド・リングへ憧れは日を追い、年を重ねる度に強まるばかりだった。在職中は不可能だった海外での天体ショウの観望も停年になれば事情も変わる。特にモンゴル、オーストリアの時は生涯に一度のチャンスだと思った。だがトシのせいか独りで参加する勇気が薄れていた。あるいは往年の好奇心もやや低下していたのかもしれない。重い腰は上がらずじまいに終わった。

日食観測は素人にとっては楽だ。観測機器など持って行かなくても暗い空に輝くダイヤモンド・リングをみ、黒い太陽の傍に滅多にみられぬ水星が明滅するサマを自身の目でみれば欣喜雀躍するに違いない。こんな誘惑に誰が勝てよう。

訊けば、中国湖州省の観望ツアーはまだ申し込み可能だと言う。ツァー料金も近距離だけに比較的安い。しかし問題もある。江南の地はこの時期、降水確率が高いと言う。せっかく千金を投じて遠征しても天気には勝てない。天体観測は天候に左右

されるから雨が降れば勿論、曇りでも果たせない。長年、星を追い空をみ続けていれば、いつもこの覚悟が求められる。叶うことなら好天に恵まれたいが、神ならぬ人間には祈る以外なす術がない。

それに生涯一度も挑戦せずに終わればマニアの名がすたる。たとえダメでも出かけてみよう。彼もおなじ思いだったらしく話はすぐにまとまった。

観測地点は太湖の畔、広い湖の南西にある堤防で前面が大きく開け観望には絶好の場所だ。前夜、歓迎の催しがあったホテルが直近にあり、ここでの休憩も用意されていた。我々のツアーはバス2台だったが、その他にも大勢の日本人が来ている。もう夏休みのせいだろう。結構子供の姿も目につく。

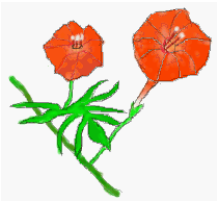
私が子供のころだったら如何に興味があろうと、海外の皆既日食観測に小学生や中学生が参加することなど到底考えられぬ夢の又夢だった。それが今では夢でもなんでもなくなっている。50年か60年の間になにもかもが変わった。

同好の士の中には私のように始めてのものもいれば、何度も参加している経験者も少なくない。諸先輩の誰もが言う。「皆既日食はどんな優れた観測機器といえども、自分の目でみる感激には及ばない」

夜が明け、うす雲を透して真上から欠け始めた太陽がみえる。時折厚い雲に覆われはしたが食がすすんで行くのがわかる。もうちょっと…。9時過ぎ激しい雨が降り出した。一旦ホテルに退避したものの小降りになると祈るような気持ちで堤に走って戻る。しかし天は味方せず、9時半過ぎ辺りが急に暗くなり一面が闇につつまれる。衝撃的な暗黒の沈黙の世界が数分間続いた。全てが静止した空間で私はじっと雲の上のコロナに輝く黒い太陽と、間近に明滅する水星や金星の豪華な天体ショーを想い描く。

75歳、人生最後のチャンスを逸した無念は勿論残った。だがあの劇的ともいえる暗闇の体験は生涯絶対に忘れられはしないだろう。それと同時にモノズキとしかいいようがない、無意味なものへ挑戦を続ける自分に、精神的に健康な人間を感じた。「オレはまだ生きている」。

先日、年明け早々中国南部でみられる日食の案内が届いた。ただ今度は金環食の可能性が強い。皆既日食は明年7月イースター島でみられる。しかしいいトシをして毎年一銭にもならぬ道楽にウツツをぬかしていれば、家を追い出される危険がある。そうなっては困るから来年は断念する。だからと言って夢は簡単には諦められない。NASAのサイトに金環食ならば3年後の2012年日本でも観測可能とある。無理をすることはなさそうだ。（戸塚教室・ボランティア）



美しい南方

李 氷

広い中国の土地の最も南に美しい地方があります。そこは広西と呼ばれています。そこはきれいな風景の場所です。こちらにいて「小楼昨夜又東風 和庭院深深幾許」と「村路弯弯 曲橋如虹」いろいろな詩歌や絵画の境地の風景が随所に見られます。まるで行人は江畔に漫歩して、手ですぐ柳枝をとることが簡単にできます。

そこは一年中多雨、空気は湿っぽくて、柔らかで、潤んで、気候変動が小さいのです。この有利な気候は人の精神を弛めます。だから、南の人は理性的な性格を持っていて、頭は冷静で、感情は細かく、外界変化に敏感です。だから、南方地区では古来、上品な人と商人が多いのです。

私の故郷はそこです。長年月私はそこに生活していました。そこには絵のような桂林の山水風景があり、アジアで第一に大きい中国とベトナムとの国境の滝“徳天瀑布”、

さらに美しい不思議な秘密を持っている“花山”があり、まだ勇気と知恵を持っている民族“壮族”がいます。

壮族は伝統的農業と紡織の民族です。伝統的な捺染技術が自慢です。ほとんど気候の原因によって、壮族の服装は真っ青と黒い服装を主とします。男性の服装は殆ど漢民族の服装と同じです。ただ、腰を束ねる帯の色や模様が違います。女性の服装はいろいろな用途のレースを飾って腰に前掛けをつけ、長ズボンをはいています。ただし、現代都市では祝日のほかにはその服装は見られません。

花山は壮族の先住民が子孫のために残した文化財産です。勤勉な先祖が知恵と勇気を証明し、先祖たちは明江（その地方の川の名）の狭い岸から険しい崖面に何か所も壁画を描きました。そこは、都市から約100キロメートルも離れている明江の岸辺です。その崖の高さは300メートルもあります。その絶壁上にたくさん赤い人像と物の絵を描きました。

人像は正面画と側面画の2種類あります。正面画は両手を挙げ、両脚を広げて

います。側面画は両手を前に伸ばし、両脚は正座しています。歴史書に記載されているのは、壁画の幅は200メートル、高さは45メートル、人物の絵は1,800くらいあります。絵の描かれた年代は東漢以前、いまを隔たる2,000年の昔です。絵の意味は何でしょうか？　2,000年に亘って色彩は依然元のままなのでしょうか？　これらはいまだ全部解くことができない謎です。

高くて大きい花山、かの独特な姿は大自然の恵みです。山の峰は川岸から300メートルの高さです。山の川に面した方は削られて、巨大な絶壁となっています。壮族の先住民はこの上に1,800くらいの数多くの模様の絵を描いて、姿がそれぞれ異なっています。遠い方から望むと、あたかも一つの燃えている火で、赤い色が岩壁上にジャンプするように見えます。

周辺の山と緑の樹や輝く川の水が、遠くから訪れるあなた方を待っています。（戸塚教室・学習者）

日本の生活

張　曼麗

張曼麗ともうします。去年の12月末に日本に来ました。ほぼ1年間を過ごしました。来日前に、日本はどの様な国ですか？私の想像の国と同じですか？などの質問がありました。どきどきしていました。

ついに中国航空会社の飛行機で成田空港に降り立つと“ようやく私は今日本にいます”とひとりごとで話しました。そのとき緊張と興奮の感覚が溢れていました。回りの物を見て安心しました。

いま住んでいるところにタクシーで着きました。日本は私の想像と全然違います。人口は少ないですが、人口密度は高いです。町は狭くて静かです。町でどこでも花が咲いています。生き生きの感じです。それに空気の中で花の香がかがれました。日本の景色は美しいです。そんな小さい国は植物の覆う面積がたいへん大きくて私は驚いていました。いい国だと思います。なんとなく好きになりました。

日本に来た時私は日本語が全然分からないです。“ありがとう”さえ単語が話せませんでした。日本に来た翌月は私が友達を連れて岩間市民センターに行きました。そこで日本語の勉強を始めました。“あいうえお”から私は日本語の勉強を続けています。

数日後友達の紹介でユッカの会を知りました。そこで吉崎さんと知り合いました。私の先生として日本語を教授してくれます。先生はとても親切だし、優しいです。まるで家族の感じです。先生は日本語の発音や文章の読解や日本の歴史などいろいろ教えてくれました。先生のおかげで私の日本語が段々上手になりました。日本の生活がいきいきとなりました。テレビや本を段々読むことができました。それに日本の生活が慣れました。私はとてもうれしいです。

先日私は日本語の能力試験2級を受けました。今は大満足です。以後日本語の勉強は続けています。このいろいろな記憶は私にとって貴重な宝物です。（横浜教室・学習者）

日本の図書館

任 志華

私は今年の1月11日に中国の大連から日本に来ました。まもなく1年になります。日本の生活にも、だいぶ慣れて来ました。日本に来たばかりのころ、電車に乗る人々が静かに本を読む姿を見ておどろきました。日本人は本当に本が大好きです。本といえば、すぐ図書館のことを思い付きました。

図書館は知識の宝庫と言われています。いろいろな情報が集められています。図書館に行けば、いつでも必要な本が手に入るはずです。日本には図書館がたくさんあります。大人や子供たちが図書館で本を読んだり借りたりできます。日本の図書館は、中国のより数が多くて、本の種類も多いです。資料を調べる人にとって、たやすくて便利だと思います。だから利用者の数も、もっと多いそうです。

日本に来る前、毎日仕事に追われて、休む暇もなくて、読書の時間どころではありませんでした。図書館にめったに行かなかったです。図書館の印象は深く残っていませんでした。日本に来た後友達に誘われて図書館で勉強を始めています。図書館は静かだし勉強の雰囲気がいいし、とても気に入ります。そのあと、図書館に外国人むけのコーナーもあることに気づきました。私のような日本語の初心者にとって役に立ちます。それに、私は日本語の先生にすすめられた子供の本を読んでみました。子供の本は分かりやすくて、絵も描いていて、とても面白かったです。図書館には何度行っても飽きないです。

図書館で、こんな雰囲気に包まれながら、本でも読んだりするのが一番落ち着きます。心から充実感が湧いて来ます。これからも図書館を十分に利用しようと思っています。（横浜教室・学習者）

足柄峠行き

星 ノブ

11月末のある日、足柄峠へ行ってきました。

足柄峠は箱根金時山の北方、神奈川県と静岡県の境にあり、海抜759m、鎌倉時代に箱根峠が開通するまでは東国と西国を結ぶ主要な道路だったようです。「金太郎」の昔話に出て来る足柄山です。古代の記録では「古事記」に記された「日本武尊（やまとたけるのみこと）」の物語があります。

九州の熊襲（くまそ）を平定した日本武尊は、今度は東国の蝦夷（えみし）を討てとの父帝（みかど）の命を受け、東国へ向います。三浦半島の走水から房総半島に渡ろうとしたとき、海が荒れて船を出すことができません。このとき、妃の弟橘媛（おとたちばなひめ）が「私が海神をなだめましょう」と海に飛び込みます。たちまち海は静まり、無事船を出すことができました。この場面は戦前の小学校国語読本に絵入りで載っていて感動したものでした。三浦半島の走水には大きな碑が立っています。

日本武尊は蝦夷を平定して都へ帰るとき、足柄峠に立って相模の海を望み、弟橘媛を偲んで、「あづまはや」とおっしゃいました。「ああわがつまよ」といういみです。このことから足柄山の東の方を「あづま」と呼ぶようになったということです。

それからこの足柄峠を通った「防人（さきもり）」たちが残した歌が「万葉集」に記されています。防人というのは、古代に対外防衛のために西海の辺境に配備された兵のことです。白村江（はくすきのえ）の戦いに大敗した大和（やまと）朝廷は新羅（しらぎ）・唐（とう）軍が攻めてくるのをおそれて対馬（つしま）、壱岐（いき）、筑紫（つくし）などの防備をかためました。そのとき東国から派遣される兵が多かったのです。親、妻子、兄弟たちと別れを告げ、足柄峠を越えて九州の任地へ向いました。生きて帰れるかどうかわからない切ない思いをのべた歌を詠んでいます。峠の頂上にほど近いところに「万葉公園」があって、歌碑など建っています。

ここからしばらく行くと峠の頂上に行きついて、関所跡があります。当時通行人に脅威を与えていた盗賊のとりしまりが重要な役目だったようです。

関所跡と道を隔てた小高いところに足柄城の跡がありました。小田原を治めていた北条氏の出城だったようですが、豊臣秀吉の小田原城攻めで滅びたようです。石段を上って城跡に立つと、あっと驚くほどの大きな富士山が目の前にありました。手を伸ばせば届きそうな、絶景です。風のない暖かな日でしたが、真白な富士山から吹いてくる風はさすがに冷たい。

平安時代、上総の国から京に向った13

歳の少女が書いた「更級日記」には、富士山の頂上から煙が立ちのぼり、夜は火のもえるのが見える、と書いています。

帰りはあっというまに峠を下ってしまいましたが、昔の道－古道がハイキングコースとして整備されているようですので、いつかこの古道を歩いてみたい。歩いてみたら往時の旅人の苦労が実感できるのではないかと思います。

ふもとにも見どころがあって、金太郎が産湯をつかったという「夕日の滝」、小ぶりですがなかなか風格のある滝です。滝にいたる道すじにキャンプ場の設備がありました。

少し離れたところにもう一つ「洒水の滝」があります。ここは渓谷が深く、足場が悪くて近くまで行けませんでしたが、荒法師文覚が滝に入って修業したと言われます。近くに「文覚」という旅館がありました。

もう一か所「大雄山最乗寺」に立ち寄りました。ちょうど紅葉が見ごろで、カメラマンが大勢きていました。ここは小田原駅から電車も通っていて交通便利です。

足柄峠は箱根峠ができてからも通行していたようで、西行も芭蕉も通ったと案内書に書いてありました。しらべてみたらいろいろ面白いことがあるかもしれません。（横浜教室・ボランティア）

最高の北京へ

中井 玲子

私は残留孤児訪華感恩団に参加しました。残留孤児は40人、弁護士7人（鈴木、小野寺、安原、米倉、清水氏等）、自民党野田夫妻と中谷氏、二世の佐藤さんです。この訪華団は全国からの残留孤児で、九州2人、高知2人、仙台2人、群馬2人、鹿児島2人、埼玉4人、千葉2人、横浜2人、その他東京の人たちです。往復の料金は一人136,000円です。

11月8日に成田空港から10時30分の飛行機に乗って、途中上海で乗り換えて5時15分頃にハルビンの空港に到着しました。空港から飯店まで1時間半くらいです。

ハルビンでは突然降温しました。零下14℃でした。薄い着物と上海の暑さ、ハルビンは寒くて困りました。バスを降りて、すぐ飯店へ入って、お茶を飲んで少し温まり、おいしい物を食べ放題をしました。私の席は人数が少なかったためです。

9日は錦江のホテル2Fで宴会がありました。11時から私たち招待の人と、中国の紅十字会、中国の養父たち、中国の養母会の会長、中国の日中友好会長たち、黒龍江省の外事所所長などです。この宴会の代金は、残留孤児は一人5,000円です。

まず池田さんが代表として感謝のことばをのべました。次は中国の養父と中国の政

府等、中国の友好会長と紅十字会会長や養母王樹藍の発言がありました。

「18歳で結婚しました。子供が生まれる前、1946年の頃日本人の子供をもらって、今は6人子供がいます。その時の気持は可哀想な子供ですから、どちらの子供も関係ない、みな同じ人間です。これから子供は大事にしなければいけない。」

10日1:30にハルビンの空港を出発、北京空港に着いて、麗泊ホテルに宿泊です。あしたは本当に温家宝総理に会えるかと思うと私は眠れませんでした。しかし、中国で40年生活をしていましたが、吉林市の市長はだれなのかわかりません。今日中国で温家宝総理に会えるんです。私の人生が変わりましたね！

3時に北京の中南海で温家宝総理にあえました。まず、温家宝総理は池田さんの手に握手をしました。いま私は信じています。はかない夢じゃない、夢は実現したのです。中南海で温家宝総理と一緒に1時間半くらい会談しました。池田代表、宇都宮副代表、事務局長等発言をしました。その後、皆さん一緒に写真をとりました。

日本でも2007年7月10日に阿部総理と写真をとりました。

いろいろなことがあります。悲しい人生もある。楽しい人生もある。でも、生きてるのはまじめにしなければならないと思います。（横浜教室・学習者）

学校受験

陳　軍民

今中学校3年生在学中、来年2月に高校受験を直面する息子を持っています、そのため、この2、3年間受験について相当いろいろ調べて参りました、日本の学校と受験のことは中国のと結構違いますから、今日はこの場を利用し、それについて私の理解したもの、体験したものを皆さんに説明し、現在または将来日本で学校を通うお子様のいる親たちに少しでも参考していただければ幸いだと思います。それではいくつかの項目を分けて説明させていただきます。

日本の小学校

極一部の私立校を除き、ほとんどの子供は近くの公立学校に通っています。うちの子の最初の小学校は埼玉県の田舎のある学校でした、初日担当の先生は挨拶してきました、外見から見るととても田舎っぽく、先生のイメージには見えなく、とても落胆しましたが、実はその先生とても知識的に、やさしい思いやりのあるいい先生でした、いままで息子の一番気に入りの先生だと言っても過言ではありません。この先生だけに限らず、とにかく学校の先生はみんな優しいです！

小学生の塾

学校での勉強は、物足りなく、高学年から塾に通う子が出ます。うちの場合は5年生の時に日本に来てすぐ塾に行かせました。近くにいくつの塾がありますが、最初は

どれがいいのかわからなく、大変困っていました、その後わかりましたが、塾は大体学校勉強した内容の復習を目的する補習塾と受験のための進学塾の2種類があります、後者は前者より明らかにレベルの高いものを教えています。うちは中学校受験の予定がないが、学力身につけるために選んだのが日能研という中学校受験の専門塾でした。入塾試験があり、その成績によってクラス編成されますが、息子は最初国語は悪くて100点満点の6点しか取っていなかった、大変厳しいスタートでした。小学生の塾なら日能研以外、その後知ったSAPIXという進学塾も強くお勧めします。

中学校受験

息子の学校のクラスに中学校受験する子が1人、2人程度でした。うちは6年生の時に塾での成績は中間までにも届かなかったから、中学校受験を諦めました、中途半端の私立校に入るより近くの公立＋塾というパターンで高校受験で勝負するほうがいいという考えでした。でも同じ条件で、近所の友達の子は昨年私立中学校に入りました、やはり皆の考えが違うようです。

中学校

極一部（一割？）の子を除き、普通は皆近くの公立学校を通います。中学校入る前にうちは埼玉から川崎に引越しして来ました、中学校は川崎の市立学校でした。確かに学校では部活中心で、勉強は簡単なものしかやっていないようです、その代わりに、学校生活はとても楽しそうです。

中学生の塾

うちは一日も早く学力を身につけるために中一からの塾でした。最初は早稲田アカデミーという高校受験の強い塾に入りましたが、途中でSAPIXという塾に転塾しました、受験実績はほぼ同じぐらいのに対して、塾に通う子供の数はSAPIXのほうが極端に少なく、効率の高い塾だと思われる塾でした、また、最初の早稲田アカデミーの校舎の実績はあまりよくないのも転塾のひとつの理由でした。中学生の塾はSAPIXと早稲田アカデミーもお勧めします。

高校受験

いよいよ高校受験です、中学校と違い、どれかひとつ高校に受からなければ浪人になります、皆前期または後期受験を参加します。所属、進学などの違いから下記5種類高校があると思います。

①国立高校。例、筑波大学附属駒場高校など。数は非常に少なく、受験の一番難しいタイプの高校でしょう。学費が安いですが、先生の面倒見があまり期待できないそうです。優秀な生徒さんが集まっているところはその魅力点だと言われています。大体そこの子は塾などに通い、東大、その他の難関国立大学、私立トップの早慶を目指しているそうです。

②難関私立進学校。例、開成、海城など。学費高いですが、先生の面倒見がとてもよいです（それでも半分ぐらいの生徒は

塾に通っているそうです)、学校によって狙っている大学のレベルは違いますが、私立の最難関だと言われる開成の生徒は国立高校と同じレベルの大学を目指しているそうです。友人の息子は一昨年開成に受かりました、とても優秀なお子様です。

③大学付属高校。例、早稲田大学学院高校、慶應義塾高校など。進学校とは違い、高校に入って、普通に勉強して、卒業時にその大学に進学するように希望すれば、そのまま所属される大学のほうに進学できます。早慶の附属高校であれば、大学受験なしで早慶に行けるし、高校でやりたいこと勉強したいこと存分にできるのが魅力的です。妻と私も中国の大学受験でさんざん体験してましたから、息子を少しでも楽にさせようと思い、志望の付属高校のほうに進めてもらいたいと考えています。

④都立、公立高校。例、東京都の西高校、神奈川の横浜翠嵐など。国立高校と同じく、学費が安いが、先生の面倒見があまり期待できないそうです、塾も必須です。うちは私立の志望校に不合格の結果出た場合は公立校にも受験したいと思います。公立校のメリットは大学受験で、東大、その他の国公立大学にもチャレンジできることです。

⑤すべり止めの私立学校。志望校全滅の場合も想定し、内申または受験によりひとつのすべり止め高校を確保しましょう。

夢

私は最初に日本に住んでいた所の近くに歴史の持つ大学キャンパスがあります、秋になるとその学校の銀杏並木が最盛期に迎えます、当時の私は撮影に興味を持っていて、写真取りに行きました。綺麗な銀杏に若い学生さんたち歩いている姿がとても印象的忘れられませんでした、その時からとても憧れて、自分はもう無理だが、息子(当時中国で、1歳)は将来この学校に入れたらと思ったことがある。まさか息子は今その学校にも気に入り、その附属校を第一志望校として目指し、頑張っています。その夢は現実になるかどうか別にし、夢を常に持つこと自体も真の幸せではないでしょうか。(横浜教室・学習者)

夏のキャンプ

ー福島県白河郡西郷村『那須甲子』と参加者の感想ー

波多野重信

今年の補習教室のキャンプについての報告は「ユッカの会通信」最新号にくわしく載せられていますので、少しちがった面からと、帰りのバスの中で参加者に感想を書いてもらいましたので、この紙面をお借りして報告させていただきます。

福島県西白河郡西郷村。これが今年の夏のキャンプ宿泊地です。宿舎名は「国立那須甲子青少年自然の家」。二年前が同

じ福島県の猪苗代でしたから、東北高速道を、下見もふくめ何回か往復しました。私にとってはそれだけでも貴重な体験でした。バスでの移動に時間がかかりすぎるのではないかとか、昼食場所をどこにするか、雨天の場合に登山の代わりの活動は、などなど考えながらの移動でした。そんななかで、地図や、ネットなどで調べていると、この地についての事柄をいろいろな面から知ることができました。

日本列島を、車や列車などで移動してみるとすぐに山にぶつかってしまいます。たとえば、横浜から移動してみると、1時間ほどで箱根の山々でトンネルに入ります。八王子を過ぎればすぐに急勾配の道を登り、山梨県の山岳地帯へと入っていきます。いつもながら日本は平地が少なく、山の多い国だと思わされます。

ところが、道路で横浜から都内を抜けて東北道を、列車では東北線または東北新幹線で行ってみるとなかなか山にぶつかりません。遠く足尾山地が見え始め、宇都宮近くで日光連山が見えてきますが、横浜から半日以上移動をしてもトンネルをくぐりません。関東平野が日本一の広さを持つのがよくわかります。

さて、福島県白河（白川）、しらかわ。この言葉に、どこかで、教科書や本や、あるいは、映画やTVの時代劇で、習ったり、出会ったりしたかもしれないと思い、あらためて調べてみました。白川の関、が知られています。奈良、平安時代にはこの関を越えると「陸奥の国」の世界、異郷の地であり、旅人に万感の思いを抱かせました。百人一首で知る能因法師（988年～）が奥州行脚をこころみたときの歌。（都をば霞とともに立ちしかど秋風ぞ吹く白河の関）。また、漂白の思いやまず、1689年「おくのほそ道」を目指した芭蕉は（心もとなき日かず重るまゝに、白川の関にかかりて旅心定りぬ）と残しています。

江戸時代では奥州街道の宿場町、白河藩の城下町。江戸幕府三大改革の一つ「寛政の改革」（1787年）、倹約令などを行った松平定信は藩主でした。田沼時代の後ですから、時代劇などでよく取り上げられています。

ここ白河の町から約20km、那須連山に向かって登ると西郷村、ここに私たちが宿泊した「国立那須甲子青少年自然の家」があります。白河市も西郷村も福島県のいちばん南部にあり、栃木県と接しています。西郷村には、福島県の中央部を貫いて流れる阿武隈川、詩人・彫刻家として名を残している高村光太郎の詩集「智恵子抄」にある、「あれが安達太良山　あの光るのが阿武隈川」この川の源流があります。ここを源に郡山・福島盆地を北へと流れ、宮城県仙台湾にそそいでいます。

私たちが登山をした茶臼岳（1915m）は、栃木県北部にあり那須火山帯中にある活火山の那須岳の主峰です。日光国立公園内の一番北にあり、複式火山です。登山中頂上の火口周辺をめぐっているときに、

噴煙を近くにみることができ、また登山道の際に蒸気の噴出しているところが何カ所かありました。頂上近くまでロープウェイが通じていますので、比較的楽に上れます。福島県境を過ぎてまで日光国立公園内にあるのがちょっと意外であり、勉強になりました。

この那須岳の連山の麓に広がるのが、甲子（かし）や那須湯本の温泉地です。天皇家の保養所があることでも知られています。牧畜業がさかんです。甲子は、辞典では‘かっし’の読みで出ています。甲子、きのえね、干支の一番目と十二支の一番目を組み合わせた年。

60年でめぐる（還暦）最初の年。1384年、甲子の年に見いだされた湯として名づけられた、とあります。大自然に囲まれた地です。ここでの活動でした。

＜参加者の感想＞

このキャンプが目指すことは、日本で暮らす生活環境や年齢の異なる、外国につながる子どもたちと日本人の子どもたちが、グループを作り、自然の中でともにする活動を通して、ひとりひとりがしっかりとした人間になろうとする意欲を持つこと。又、経験者の高校生たちがリーダーとして育つことです。

参加者は小学生2名。中学生12名。高校生20名。ボランティア13名です。2泊3日の短い活動でしたが、帰りのバスの中で感想を書いてもらったものをまとめてみました。（全員ではありません。同じ感想はまとめてあります）

１）目標「友達になろう、すすんで参加し、協力しよう」についてはどうでしたか？

小学生：けっこうよかった。OK。

中学生：できた。・友達になろうとは言わなかったです、知らないうちに仲良くなっていました。野外炊飯ではグループで協力できたと思います。・多分全然できなかったと思います。相手の方から話しかけてもらったので、協力もすすんでしてなかったです。・このキャンプが初めての人もいるので、すすんで友達づくりをしました。ひとつひとつのイベントを楽しめました。・新しい友達がたくさんできて協力しあえました。・普通でした。・けっこう友達はできました。・友達もたくさん作れてみんなで協力ができたのでよかったと思う。・友達がいっぱいできた。

高校生：期待して楽しもうと頑張ったと思いました。・友達がいっぱいできました。みんな協力で登山や野外炊飯ができました。・たいへんによくできました。・友達はつくれたけどいつもいたずらをしてしまって協力できなかった。・がんばって協力していたと思います。・よくできたと思う。確信はないけど、まったく知らない人と話だけして楽しいっていう感覚がもてたから。・みんなで協力できたと思う。・初めて会った人にも話すことができて協力できたと思う。・あまり協力しなかった。・女の子たちとすごく仲良くできた。・目標通りに進んで協力できたと思います。・いろいろな国の友達を作れました。たのしかった。

ボランティア：自然とその目標にとりくんでいたと思う。・今はじめて知りました。でも結果的にできたと思う。・実行できなかった、身内の中で終わらせていた気がする。・すすんで参加した。全体に協力するように縁の下から支えた。

2）2泊3日のキャンプの内容はどうでしたか？

＊どの活動がよかったですか？

小学生：カレー作り。・キャンドルファイアー。

中学生：野外活動。・キャンドルファイアーの時、みんなとの思い出を振り返ることができて良かったです。他に、登山がとても楽しかったです。・ゲームが楽しかった（数名）。キャンドルファイアーのろうそくの火もとてもきれいでした。・全部だけど特に登山が良かったです。頂上に到着したときすごくうれしかったです。・とても楽しくできたすべての活動がよかったと思う。

高校生：とても良かったです楽しかったです。・山登りとゲームです。・全部、登山がこわかった以外。・すごく楽しかった。・班のみんなが協力してゲームをやって楽しかった。・ゲームで予定のミスでブーイングをされることもあったけど、逆に考えてみるとみんながやる気を持って行動していたってことだと思った。・みんなで同じ部屋に泊まるのが楽しかった。・野外炊飯。・登山が一番印象強かった（数名）。・キャンドルファイアー。・いろいろな活動で自分の班と別の班の友達をつくれました。一番楽しかったのは、カレーをつくりました。いちばんおいしかったです。

ボラ：3日目はすべて出発予定時間から5分以内に出発できた。1～2日目は15分～30分かかった。

＊もっとやりたかった活動がありますか？

中学生：ゲームでもっとたくさん遊びたかった（数名）。・海へ行きたい。

高校生：ゲーム（数名）。・自由時間がもうちょっとほしかった。寝るべき時間でもしゃべってました、ねむいです。・きもだめし。・今度は、年齢に分かれてリレーをしてみたらいいと思った。・野外活動。・茶臼岳のハイキング。・牧場をもっとゆっくりと観光したかった。・もっと時間があればもっとたくさん友達が作れた。

ボラ：全体的にゆっくりと見て回りたかった。・プール。・キャンプファイアー。・全員の意識向上がもうすこしはかれれば良かった。

3）自分の行動、責任についてはどうでしたか？

＊なんとかできましたか？（どんなところが）

小学生：弁当をちゃんとくばった。

中学生：カレーを作るときいろいろ手伝った。・お弁当係として班の人に配った。・あんまりないです。・周りの人へのあいさつ自分から声をかけられた。・テキパキと行動した。

・いろいろなやるべきこと。・列で並ぶときにすぐ並べたと思う。・ふつうです。

高校生：登山が安全にできた！途中であきらめなかった。カレーがなんとかできた。・みんなと楽しくやっていけたこと。・できなかった。・班の活動にちゃんと参加したところ。

・とりあえずマナーやルールは守れたと思う。・忘れたりさぼらなかった。・リーダーを自覚し行動すること。・リーダーシップできたと思います？・私は班の人といっしょに行動できたと思いました。

ボラ：司会は何も考えていなかったわりにはできたと思う。・みんなをまとめたりすることが出来た。

＊あまりよくできなかったことは？（どんなところが）

中学生：時間が守れなかった。・リーダーさんに人数確認などいろいろなことを頼りすぎた。かってにどっかに行ったりしてリーダーにめいわくをかけた。集合、時間にルーズだったところ（数人）。ラジオ体操あまりやってなかったから。

高校生：料理だと思います。・寝るのが遅かった。・短気でたまにイライラしてきれたりした。・移動でも、班で移動できればよかったと思います。・ジェスチャーゲームで、タクシーとスパゲティはちょっとしか全員でできなかった。・少し協力が乱れた。・寝不足です。・時々、リーダーの自覚が薄くなった。・時間内で集まること。・時間通りに行事を進めることができなかったこと。・カレーつくり、自分はふつうごはんを作るのは少ない、切ったりあらっただけで、あとは他の人がした。

ボラ：全体的にまとめ方ができていなかったと思う。・友達にまかせきりだった。

４）あなたの生活班の活動はどうでしたか？

＊よかったところは？

中学生：仲良くできた。・シーツや布団のたたみ方をみんなで教えあいきちんとすることができた。・一日目の夜だけ早く寝た。食事をするときもできるだけ他人に迷惑をかけないように頑張った。・うるさくしなく、早く寝る。・朝時間通りに起きた。・ゲームで一緒に協力し合ったところ。・みんなで楽しくできた。・みんなで協力できいつもわいわいしてたところ。

高校生：みんな協力でき、登山の時手伝ったと思います。・バスはいつも全員OK！人数が少ないからさがしやすい。・みんな積極的に参加していたところ。・チームワークが良かった。・全部良かったうちのリーダーはすごくいい子だった、俺はあいつの前でいつも子どもみたい、これからもう少し成長しないといけないと思った。・みんな友達になった。・みんなで協力しあってゲーム大会をやることと、時間通りにちゃんと集まってること。・集合の時にあまり声を出さなくても集まってくれたこと。・私は日本語がわかりません、班

の人がやさしく手伝ってくれました。

ボラ：わりと早く並べていたこと、リーダーが突然に変わったにもかかわらずしっかりと仕事していたこと。・他の班とくらべるとよくできていると思います。1日目のカレー作りもチームワークがよくて、集まりもだれも遅刻がなかったです。・人の話を聞く。

＊あまりよくなかったところは？

中学生：部屋がきたない。・『自分』を考えて行動する人が多かった。・単独と、独断（？）行動が多かったと思います。周りの人にめいわくがかかっていた方がたくさんでした。

・お片付け。・あまり早くねなかった。・ボランティアなどの話をきいてなかった。・集合をするときにばらばらだった。

高校生：人数がすくなかったからちょっとさびしい。ひとりぐらいいつもほかの場所にいってしまう。・各自バラバラ行動することが多く集合が遅い。・まとまりがなかった。・一人だけ先走ったり班がまとまらない時が何回かあった。・一定の人と話ばかりで多く人と話せなかった。・うるさかった。・私語が多かったこと。・日本語がわからないからあまり話せなかった。

ボラ：話をあまり聞いてないように見えた。・集まりが悪く行動が遅い。

５）そのほか思い出、係やリーダーとして何でも書いてみましょう！

中学生：3日間楽しいスケジュールがたくさん入っていてとても楽しむことができました。ボランティアさん本当にありがとうございました。・熊うちの話やカレーつくりとても楽しかったです。朝起きるのがツラかったりもしましたが！とってもとても楽しく過ごす事ができましたっ！又来年も行きたいです。・最初今年は大丈夫かなと思いましたが、みんなとてもなれてきて、楽しい時間はあっというまにすぎていったと思います。もうちょっと長かったらと何度も×2思ったのはきかくしていただいたボランティアの方々のおかげだとおもいます。楽しい3日間ありがとうございました。・ボランティアの方々がすごくやさしくしてもらいうれしかったです。・友達と仲良くなれた。・みんなでCMソング作った事。（部屋で遊んでいただけです。）・夜おんなどうしでいろんな話ができて楽しかった。・たくさんの友達ができてすごく楽しく過ごせた1日目のカレーは私たちの班が一番はやくてよかった。2日目は山に登って疲れたけれど、頂上はとてもきれいで登る価値はあったんだなぁ～と思った。3日目はみんなと別れるのを思ったらとても悲しくなったが、本当に最高に良かったと思う。・シーツ係としてきちんとできたと思う。

高校生：責任感があります、優しいです。・登山がすごくこわかった、安全にもどってきたときすごくうれしかった。いきなりリーダーになったから何をやればいいのかわからなかったけどがんばりました。来年は山登り変えよう！・楽しかったなぁ～～

～。・まあ初めてだったのでよくわからないけどできたんじゃないですか！！・顔なじみのない人との協力は大切なんだなと強く感じた。・友人と一緒で楽しい旅行だった。・リーダーさんの仕事よくできました。とても真剣なんです。来年俺もリーダーになりたいなーと思います。・リーダーとしての責任感が身についたと思いました。・ゲーム大会が例年よりも工夫されて楽しかったです。・私の班のリーダーは良かったです。活動の前にみんなにすることをおしえました。ゲームのときに負けましたけれど表現は一番だったと思います。

ボラ：楽しく遊ぶのはいいと思う。けどまじめな話の時は静かに聞いておかないといけないと思う。年の上の人も多いのでちゃんと場によって臨機応変していただきたいと思う。・短い間でしたがありがとうございました。ボランティアとしてはちょっと力不足だと思います。（横浜教室・ボランティア）

話のタネ

松元　秀弥

誰もまじめに読まないだろう文章を書くこと位気楽な稼業はありません。それによって読者がどんな災害に遭おうとも、筆者といたしましては如何なる責任もとれる立場にないからです。それでも人類はやがて（間もなく）太陽の燃えつきると共に滅びる等と云はずもがなの真実を述べたてても、あまりにも先のことなのでそんなものかと無視されるだけで、たいした反応は期待できません。むしろ、それより現実的に起っている凶悪事件に今日も遭わずにすんだと胸をなで下ろす方が実感につながる現実です。

朝めざめたとき、ああ　ゆうべはハンマーでなぐられなくてよかったと幸運を感謝し、駅のホームで突きとばされなくて幸いだった、電車が脱線転ぷくしなくて助かったと、天を仰いで神仏に感謝しなくてはなりません。それに、親戚縁者の声もよく聞き分けできるよう、普段から気をつけて対応し、決して「オレ、オレ」の声につられてATMに突撃して大切な虎の子をとられる被害に遭わぬよう、呉々も注意が肝要です。

この雑文を書くに当って、アイデアを山のように集めたところで結局頭が悪くなる丈で、学習の効果があったとか、すがすがしい気持ちになったとかいう実益はありません。それどころか、益々疑問と未知の分野がふえて七転八倒の苦しみが増すばかりです。ともあれ、何かと興味あるテーマなり情報がありはせぬかと「うの目たかの目」に老眼鏡を押しあててさがしてみました。

まじめな皆さんにはまじめによみたくない

文章もまじめによもうとする、実に包容力のある方々だと信じておりますので、安心して夜も眠れるものとあんどしております。

１．国際会議とことば

ペリーが黒船で日本にやってきたときの交渉は何語を使ったか？

1853年　米国のペリーが4隻の黒船をひきいて日本にやって来たのは、それからの日本の歴史を変える一大事件でした。世界の激動をよそに鎖国の夢をむさぼっていたところにきたのですから大変です。それも、一大強国なることは明らかな国の使節が武力をもってしても日本に開国させる決意で来たのですから、幕府はおろか国中がうろたえたのも無理はありません。

先ずは、来訪の目的、要求など判らなければ交渉になりません。そこで、はたと困ったのは「言葉」の問題です。身振り手振りでは限界があります。外国との交渉時には語学が大切なのは今も昔も変りありません。なにしろ、アメリカやイギリスとはそれまで殆ど没交渉だったのですから英語を話せる人は当時ほとんどいませんでした。

そこで回りを見渡してみると、鎖国下の江戸時代において日本渡航を許された唯一の西洋国家オランダを通して伝えられた医学、その他蘭学の取得のためにオランダ語の勉強をしなくてはならず、それにより話せる人がかなり居たと思われます。その人達の中から適当な人をえらんで、オランダ語を介して会談を行うと云うややこしいことをやったのです。

日本とアメリカとの最初の会話は嘉永6年（1853年）6月3日、黒船上で浦賀奉行与力・中島三郎助の通詞（通訳）堀達之助とペリーの副官コンティ大尉の通訳アルセ・ホットメンとの間でオランダ語で行われました。

日本側から発せられた最初の言葉は

「貴艦は何国の船にて、何の訳ありて当港に渡来候（そうろう）や」

この様な、国をゆるがす大事件から150年あまり、世界は完全にグローバル化して、遂に話し合いの場を作り、問題を提起し、議論し、相談していかないとたちゆかなくなりました。国際連合の発足です。

1945年（昭和20年）10月24日、50ヶ国の代表が集まり、現在では加盟92ヶ国、公用語は常任理事国の英語、フランス語、スペイン語、ロシヤ語、中国語の5カ国語です。会議の発言はこの5カ国語に通訳され、出席者に同時通訳（シマルツ：同時通訳者）されます。通訳官（コンセクス）がおり、公式文書に残してゆく。これらの仕事は驚く程ぼう大な仕事量で、たとえば総会中の発言2千万語を5個の公用語に翻訳すると1億枚の紙が必要になります。英語で1時間演説すると5ヶ国語でそれぞれ正しく記録されるまでに120人で延べ400人時の労力が必要になるといわれています。

２．医者のカルテ

具合がよくないので診察してもらおうと病院を訪れると、先ず容態を告げるわけですが、その際必ず紙を広げて（カルテ）ペンを走らせるのがきまりきまったお医者さんの動作です。

何を書いているのかとチラッと目をやれば十中八、九横文字で記しています。歴史の語るところによれば現代では先ず英語らしいが、一昔前のドクターだとドイツ語で書いている場合もあります。もう一昔前だとオランダ語の人もいるでしょう。

病状の問診がまず第一、熱はあるか、頭痛は、血圧は、排便の様子は、痛みのあるところ、その他訴えたいこと、（服用したならば）薬やサプリメントの種類、分量など記録し、診断の材料にします。その際、診察しながら速く正確に書き込まないといけないので漢字は大変です。どうしても音標文字の英語或いは他の文字が便利です。その上医学には医学の専門用語が山のようにあるので、そのおのおのに漢字が製造されて命名され、まさに漢学者を兼ねなくてはならない為体（ていたらく）です。

一例をあげると、

おたふくかぜ（急性耳下腺炎）、みずぼうそう（水痘）、むしば（齲歯）、みみあか（耵聹）、くしゃみ（噴嚏）等々、これを覚えるだけで恐ろしくて途中で逃げ出したくなる程です。象形文字である漢字は絵画のようにそのものの全体像を表そうとするのでどんどん新しい形が造られます。音標文字であるいわゆる横文字は、その発音の単語のもてる意味を基礎とするので表記的には簡単です。書いている文字は殆ど英語かドイツ語です。

外国語を使うこのほかの理由としては、診断した内容をあまり患者にははっきり知らせたくない場合に便利であるということもあるでしょう。

最近は、それでもカルテに記入される用語は次々と捻出されるので、統計や分析のためデータとして活用するため医学用語や症状などの表現を符号化して、コンピュータ処理することが行われています。

３．女流文学の開花（かな文字の定着）

平安時代の宮廷女流によるかな文字は和泉式部、式子内親王、藤原俊成女らによるすぐれた短歌としても現れていますが、紫式部の「源氏物語」「紫式部日記」「道綱母の蜻蛉日記」、和泉式部の「和泉式部日記」、清少納言の「枕草子」、菅原孝標女の「更級日記」等すぐれた作品です。物語文学として極限的なすばらしさをもつ「源氏物語」は一夫多妻的な男女関係に苦しみぬいているその時代の女性たちの現実に、作者自身が経験する男女の愛による人生の手ごたえとそれに伴う苦しみのさまざまな姿、即ちもののあわれをあくことなく追求しています。

これに対して物語的なのが「蜻蛉日記」「更級日記」で、随筆文学として極めてす

ぐれ、無類の精彩を示しています。「枕草子」や和泉式部、紫式部の「日記」ともどもすぐれた観察や情熱や心理的追求をつくりだしています。当時の社会では男性は漢字を常用しており、文字が読み書きできるのは貴族、僧侶、神官など一部の特権階級に限られていました。一方、女性は平易なかな文字を使用することによって、男性より一歩先んじて文学に関心をもち、作品をかき、鑑賞するようになりました。

かな文字の平易さが女流文学の洗練を促したことのほかに、当時の女性文学者の出身が中流貴族だったことも見のがせません。これは京都ばかりに居ついている上流貴族と違って受領（ずりょう：地方長官）等の中流貴族は地方に任官されることも多く、彼女たちは父や夫とともに旅をし、見聞を広げ、豊富な体験により文学の糧を得ることができたものと思われます。

［参考］ユッカの会ホームページ“日本の漢字と漢字の行方”をご覧ください。

４．電話で「もしもし」

電話をかけるとつい十中八、九の人は「もしもし、こちらは○○ですが」と反射的に云ってしまいます。中には、「おれだ」「わたしだ」「私よ」等の名乗り方もありますが、相当限定された相手の場合でしょう。「おれだ」等はあまりききたくもない呼び出し文句です（オレオレ詐欺の呼びかけ言葉）。受話器の向うで不意打ちをくらった相手が「エッ、だれ？」とききかえせば、きっと「もしもし、おれだ」になるでしょう。

さて、この「もしもし」ですが、「これから何かいいますよ」という気持で、「申します、申します」といっていたのが一般化し、省略されて「もしもし」になったといわれています。「申す申す」が転じたという説もあります。

ところで、この「もしもし」が電話が始まったころからの相手への呼びかけ語というふうに思われていますが、実はそうではないのです。東京の電話交換が始まったのは明治23年（1890年）ですが、それに先立って電話交換の公開実験が催されています。そのときの模様が読売新聞に次のように出ています。「ここにおいて需用者は聴音器を両耳にあて、器械の中央に突出する筒先を口にあて、まず「オイオイ」と呼びて用意を問いあわせ、（交換手につないでもらって相手がでると）「オイオイ」と呼んで注意し、先方よりの承諾の挨拶あるを聴音器にて聞き取り、それより用談に入るなり」

電話が開通した初めころは「もしもし」ではなくて「オイオイ」だったのです。当時、電話をもっている人といえば高級官吏とか実業家など皆偉い人ばかりだったでしょうから、皆々いばっていたのかもしれません！

この「オイオイ」に対しての受け手の応答は「ハイ、ヨウゴザンス」でした。これがいつごろから「もしもし」に変ったのかは、いまのところ明らかではありません。

［註］申す：言う、告げるの謙譲語

５．天皇陛下と新聞、テレビ

テレビについて天皇陛下自ら記者会見できかれても、「テレビ会社の競争が激しいのでご覧になっている番組はいえません。」と話されたことがあります。侍従の話も優等生の返答で、「各チャンネルをご覧になる」ということで、特定の番組は公表されません。テレビをご覧になる場合は天皇皇后両陛下ご一緒のときが殆どで、とくに皇后様お一人だけでご覧になることはないようです。これを聞くと、日常生活の内容がわからないと何時御一緒に天覧あそばされるのか見当がつきません。家事はどうしていなさるのか、食事づくりや洗濯掃除、私的な時間のすごし方など、案外公務がお忙しくて、テレビをみているひまは少ないのかもしれません。

新聞の方は、東京で発行されている主要日刊紙6紙の朝夕刊が皇居へ届けられています。戦前は結核などが国民病で不治の病とされていたこともあって、配達されてきたもの一切が消毒されていましたが、現在は消毒していないそうです。現在心配されている鳥インフルエンザなどは、どの様な取り扱いになっているのでしょうか。皇居の森に巣喰っている鳥はどんな待遇を受けているのでしょうか。天皇皇后様に余計な心配をかけないように、或いは知らしめないように、記事の一部が切り抜かれたり墨で塗りつぶされたりしているというようにいわれることもありますが、現在は勿論戦前でもそんなことはなかったと宮内庁はいっています。

天皇陛下は新聞の重要ニュースには一通り朝食前に目を通されます。1紙みるだけでも意外と大変でしょうに、6紙に目を通すとすると、真剣にみると、終日かかるのではないかと心配になります。

役目柄各国元首の動静や外国王室の記事などに注目なさっておられるのでしょう。そのほか強い関心をもって読まれるのは内外の災害ニュース、自然保護、公害関係のニュースなどです。

通常の新聞配達にはさまってくる広告紙はどうなっているのでしょうか。スーパーの特売大安売りに天皇陛下が血眼になって駆けつける必要もないでしょう。うっかりスーパーやコンビニに行けば握手やサイン攻めにあって、もう腕が上がらない程くたびれること間違いなしです。また、宮内庁御用達品にポイントがついたといっても、あまり多いとプライドに係わる問題で品質を疑われる結果になります。

いずれにしても、少しでも気をひくような行動はとれないので、一挙手一投足気をつかいながら生活を組み立てて行かなければならないお立場はずいぶんと窮屈な日常生活だろうとご同情申し上げます。

６．建設現場のクレーン

高層ビルの建設現場には鉄骨の横やてっぺんに必ず巨大なクレーンが取り付けられています。おなじみの風景ですが、ところで、あのクレーンをどうやって上にあげた

かと不思議に思う人は多いでしょう。実際に、あの大きくて重そうな機械をあの高さまで上げるのは簡単ではないように思われます。

ビルの建設はまず鉄骨を組み立てることから始まります。あの鉄骨の柱と梁は3階分ずつ建てられます。クレーンは3階分建てられるごとに上に昇ります。その昇り方は簡単にいえば、クレーンはシャクトリ虫のように登っていきます。つまり、クレーンのまん中に立っているのをマストといいますが、これは伸縮自在にできています。つまり、3階分の鉄骨ができるとその鉄骨にマストを固定します。そうすると、クレーンの本体はマストに支えられて登っていくというわけです。

工事が完了したあと、クレーンはどうやって降ろされるのでしょうか。工事完了でビルのてっぺんに残っているクレーンよりひとまわり小さな解体用のクレーンをセットします。これは大きなクレーンを分解する前に用意します。同じようなことをさらに小さな解体用のクレーンにより分解して降ろします。その繰り返しを3度ほどやれば、最後に残った小さな部品はエレベーターやゴンドラを使って降ろします。

7．カレーとジャガイモ

カレー粉は本来熱帯地方で用いられていたが、欧米人の好みに合って広く用いられるようになり、明治以後日本にも輸入されるようになりました。今日では日本人にも好まれる洋風香辛料となってすっかり定着しています。最もよく知られているのはカレーライスです。ただし、庶民に普及したのは明治20年の後半のことです。それに、当初は「文明開化の食べ物」として、いわばファッションのように受けとめられただけで、日本人の味覚にピッタリ合ったというわけではありませんでした。それに、中に入れるものも玉ネギではなく、日本ネギでした。玉ネギは明治になってから渡来したもので、まだ普及の段階には至っていなかったのです。

ジャガイモも量産段階になかったこともあり、用いられませんでした。その後、玉ネギやジャガイモが普及するとともに、カレーライスにも入れられるようになりました。

それでは、カレーライスにジャガイモを入れるとどんな効果があるのでしょうか。人間の味覚はだれしも同じではありません。ひどく辛いのが好きな人もいれば、少しの辛さにもお手上げの人もいます。

カレーライスは、好みをある程度調節することができます。辛すぎると思った人は、まずライスとカレーを混ぜて調節します。そして、それでもまだ辛いと思ったならば、ジャガイモをスプーンでつぶせばよいのです。つぶしたジャガイモをカレーに混ぜれば、辛さが弱まります。「カレーライスのジャガイモは形が残っていた方がよい」というのはこのためです。

ついでに、ジャガイモという名前の由来を調べてみました。もとはアンデス山脈の高地が原産で、その後世界中に広がり、重要な食料として栽培されています。日本にはサツマイモに遅れること数年、1598年、

一説には1603年、オランダ船によりインドネシアのジャワ島のジャガトラ港から長崎に伝わったのが最初で、ジャガトライモと呼ばれ、省略されてジャガイモとなりました。

８．帝王切開とガラスの靴

今ではさほど難しい手術ではなくなった帝王切開ですが、昔はお産のさなかに母親が命をおとした、開腹して胎児を救うという、まさに決死的手術であったでしょう。

そのような帝王切開が、いつごろから行われていたかといえば、起源は古く、紀元前3世紀の古代エジプトですでに手術の記録が残っています。

また、ローマ帝国では帝王切開をなすべき場合（母親が死んだとき）を法に定めていました。それでは、この「帝王」とはなんのことなのでしょうか。

帝王切開はラテン語でsectio caesareaといいます。caesarea は切る、切り刻むという意味で、もともと手術に近いことばであったわけです。ところが、それをドイツ語に訳すときに caesarea が caesar（カエサル）と誤訳されてしまいました。caesar とはローマ帝王ジュリアス・シーザーのことです。これが帝王切開ということばの由来ということです。誤診や手術ミスは許されませんが、誤訳によって言葉が一つできたというのは、恐れ多いが、興味あるできごとです。

昔話で、継子話の代表的なもの、後妻が先妻の娘シンデレラをいじめ、かまどの世話など完全に差別扱いしていました。ある日、王子の主催する舞踏会が行われたとき、日頃からいつもいじめられているシンデレラをかわいそうに思っていた魔女のお蔭で正装して出席することができました。但し、夜中の12時までには帰るという約束だったので、あわてて帰ろうとして片方のガラスの靴を落してしまいました。（中略）王子さまに見そめられて結婚し、幸福になるという筋書きです。

問題はガラスの靴ですが、これははいてみてさぞかし痛かろうと誰でも思うのではないでしょうか。さらに、運悪く割れたりして怪我でもしそうな気がします。ところが皆さん、ご安心ください。実は、硬いガラスではなくて、軟らかい「黒てん」の靴だったのです。

Pantoufle en vair（黒てんのスリッパ、フランス語）を英訳するとき、sable slipper（黒てんの毛皮の靴、英語）とすべきところを、en vair を en verre（verre：ガラス、フランス語）と取り違えてしまったため、glass slipper（ガラスの靴）となったのです。

因みに、黒てんの毛皮は王とその児どもだけが使うことができたので、誤訳者が実は社会的混乱をさけるため故意に行った誤訳かもしれません！

９．飛行機はどうして浮き上がれるか

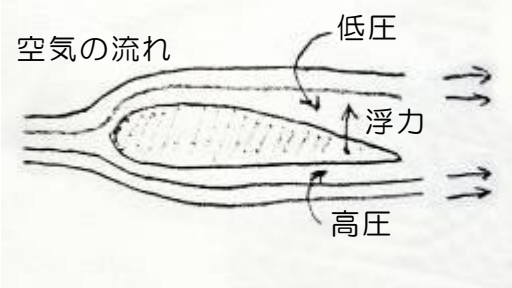
100トンもあるあんな重たいものが、どうして空気中に浮くのかさっぱり判らない、まして、その中に乗るなどということはとても怖く

て信じられないと云って、絶対飛行機には乗らないという人は案外大勢います。誠にその通りで、100トンもあるものが空に浮くのが不思議に思わない人の方がおかしいというべきで、そう思う人は誠に純真無垢の人で、感性豊かな感覚の持ち主です。もう一つの恐怖は、機中の人となったとき周りに何の支えも見えないこと、その見えないもの、無色透明の空気だけが支えになっていることが信じられないことです。これが、空気に何か色がついていて動きが判ると、かなり感覚的に違ってくると思うのですが、今度はスピード感が直接伝わってきて、益々恐怖が感じられるかもしれません。

話は原点に戻りますが、空を飛びたいという人間の夢は、最初鳥のように羽をつけてバタバタやったのですが、なかなかうまく行かず、翼を動かすことよりその形を工夫し、それに空気をぶつけて浮力を得ることを考えました。模型飛行機などで見たことがあると思いますが、翼の断面はなだらかな山のような形をしています。飛行機が浮かぶのはすべてこの形によるものです。

ここでちょっと固い話になりますが、スイスの数学物理学者ベルヌーイおじさんの流体の流速と圧力の関係を示す定理があって、先程の翼の断面形状の上と下を流れる空気の圧力が、上の翼面（山形）を通る空気流と下の翼面（直線的平面）を通る空気流では、下面の圧力より上面の圧力が低いので、翼は押し上げられ、飛行機の重力とつり合って空中に浮かぶことができるのです。勿論、この浮力（揚力）は空気の流れが必要です。そのため、プロペラとエンジン、或いはジェット推進で機体を猛烈な力で前方に動かしているのです。

＜翼の断面形状と空気の流れ＞



ジェット機の場合、空気の流れは音速に近い速度が必要です。秒速340m（時速1,230km）、空気の重さは1リットル1,293gです。

１０．正直者のアイ

ここに3人（アイ、みち、良江）がいます。

A（Bはアイです）
B（Cはアイです）
C（Aはみちです）

少なくともアイは真実を話しています。3人の名前は？

答：A みち、B 良江、C アイ

説明：Aはアイではない（アイなら発言は真実でなくなってしまう）
同様にBもアイではない。
故にCがアイ。Cの発言（真実）からAはみち、残るBが良江となる。

あらたな歩み

中　和子

皆様いかがお過ごしでしょうか？

21年目を迎えたユッカの会はこの4月、少し所帯が小さくなりました。すでに皆様にお伝えしましたように中国残留邦人に対する新支援法が実施され、2009年度から地域教室が横浜市の委託事業「しゃべり場」(注1)になりました。

それを機に、中国残留邦人一世対象の事業はすべて「しゃべり場」に移り、ユッカの会としては日常活動の3本柱（補習教室・日本語教室・パソコン教室）はそのままで、交流イベントの内容が変わりました。交流イベントの対象者が日本語教室・補習教室・パソコン教室参加者となったことです。

対象者が絞り込まれたことで企画する段階で年令による多様さは軽減され、また参加人数も少数になることで身軽に動きやすい活動ができたのではないでしょうか。これから迎えるクリスマス会は今年唯一しゃべり場との共同企画ですがこの企画についても、今盛んに議論されているところです。

20年間先人の思いを温め継続することに意味を見つけて守り育ててきたユッカの木ですが、無事株分けが終わり「ユッカの会」と「しゃべり場」、2本の株が根付き、第一回の剪定をする時期になったようです。

整枝を行い、たっぷりの養分を根に注ぎ、風薫る5月、2010年の連絡会にはあざやかな緑葉を期待したいと思います。

それでは今年度の活動を振り返って見ます。

<教室活動>

1．補習教室

横浜、戸塚、本郷台の3会場と学習者の近くの施設、自宅等希望によっては活動場所も柔軟に対応しながら90名を超える子どもたちをサポートしています。近年横浜市内には補習教室の数が増えてきていますが、ユッカの会に来る子どもたちの数は減少するのではなく、むしろ増加しています。丁寧な対応が評判を呼び、市外からの参加者も目に付きます。受験生の多様化に戸惑いながら関係機関と連携しながらのサポートです。

小学生や、高校生のサポートにも課題があり、折を見て熱心な話し合いが行われています。7月にはボランティアの方からの要望で高校受験についての情報交換会(注2)も行いました。集中教室（夏）(注3)やキャンプ(注4)も計画通り実施いたしました。

補習教室のメンバーは冬の教室（12月23日、24日）、面接練習（1月6日）など受験に向けて、年末年始も返上の対応が続きます。遠い先に子どもたちの笑顔を思い浮かべているのでしょうか。皆様のご協力よろしくお願いいたします。

昨年に引き続き立教大学三本松先生の

ゼミ、明治学院大学のグループ「こころ」の方々にもご協力いただきました。

2．日本語教室

慢性的なボランティア不足、20名近い学習希望者が待機している状況が続いています。定年退職された先生方がグループで参加してくださったり、若い方の参加もあるのですが、学習者数＞ボランティア数不等号の向きはこの1年変わることがありませんでした。

あちらこちらで今日的課題として日本語教育のあり方の論議(注5)が盛んです。近い将来、定住外国人への日本語初期指導の公的保証がなされることを期待しつつ、ユッカの会は地域に根付いたボランティアの日本語教室ならではの特性を生かし、これからも、「誰もが心豊かに安心して暮らせる」よう、だれもの一人としてかかわり続けていけたらと願います。

3．パソコン教室

しばらくお休みしていた教室ですが、10月から毎月、第3土曜日10時から12時で再開しました。

森さん長い間、パソコンのご指導ありがとうございました。10月からは宮入さんが担当です。今回は学習者、ボランティアを問わず、分からないこと、聞きたいことを尋ねる時間です。どなたでも参加できます。パソコンも用意していますが、ご自分のパソコンをお持ちになるのが上達の早道かもしれません。

<交流活動>

上述しましたように、組織が小さくなりましたので、活動はこじんまりと行いました。バーベキュー会(注6)や料理会(注7)、バス見学会(注8)などでは普段お会いする機会のない学習者同士の交流がとても微笑ましく、その後、彼ら自身で次の集まりをしたり、仕事の紹介などしあったりしているようです。

各交流活動の企画者はそれなりの準備に追われますが、孤立しがちな学習者にとっては交流活動の場の持つ意味は大きいようです。そしてここ数年はこの企画に学習者の方々がボランティアとして加わってくださるようになりました。19日のクリスマス会にも高校生を始め多くの学習者の方からお手伝いについて問い合わせ電話が入っています。

参加者の多様化、定住化傾向などを踏まえ、交流活動は参加者のご意見もお聞きしながら継続の可否について検討する時期なのだと思います。

＜助成金＞

おかげさまで当初予定していましたものはすべて満額いただけました。それでも活動費が不足し、会計担当者の頭を痛めておりましたが、12月3日、横浜市定額給付金寄付金活用事業外国人の子ども学習支援助成金を申請いたしました。降って沸いたような助成金（10万円：補習教室教材費）です。結果発表（12月18日）が待たれます。

今年も湘南白百合学園中学校の生徒さんたちが手作りのクリスマスカードとプレゼントをクリスマス会に間に合うように送ってくださいました。子どもたちはこのプレゼントをとても楽しみにしております。ありがとうございました。

会計からの発信「活動費が足りない・・」が知れ渡ったのか今年度は会員の方からの寄付金が集まっています。また、5月に行われたあーすフェスタ(注9)に参加した林麗民さんたちから参加費をキャンプの費用にと寄付がありました。重ねてありがとうございました。

＜これからの活動＞

行事名	月 日	場所	担当者:電話番号
冬の教室	12月23、24日		
高校受検個人面接練習	1月7日	県民センター	岩松:922-4987
研修生を囲んで	1月16日	県民センター	中:893-9441
成人を祝う会	1月24日	県民センター	日向:571-6266
スピーチ会	3月14日	県民センター	波多野:572-8237
卒業を祝う会	3月28日	県民センター	岩松:922-4987
理科実験教室	3月28日	県民センター	岩松:922-4987
春の教室	3月29日	県民センター	岩松:922-4987
※餃子の会	1月21日	あーすぷらざ	中村:363-8440

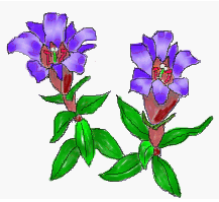
※餃子の会は「しゃべり場」の事業ですが地域の方との交流が目的ですのでユッカの会の方のご参加をお待ちしているとのことです。

教室活動やイベントの問い合わせは事務局か担当者へどうぞ。大勢のご参加をお待ちしております

最後になりましたが12月6日ボランティア活動に対し神奈川県社会福祉協議会会長表彰を受けましたことご報告申し上げます。

どうぞ皆様、お体にお気をつけて、よいお年をお迎えくださいますように。

（ユッカの会事務局長）



（注1） しゃべり場　ホームページ

http://1st.geocities.jp/yukkanokai/

（注2）～（注4）、（注6）～（注9）

ユッカの会　ホームページ　写真で紹介する活動

ホームページアドレス：http://www.max.hi-ho.ne.jp/miyairi/

（注5）　文化庁：ホームページ

「地域における日本語教育の体制整備について（案）」

「生活者としての外国人」に対する日本語教育の目的・目標および内容（案）

アドレス

http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/bunkasingi/nihongo_09/gijishidai.html

「東京宣言」

多文化・多言語社会の実現とそのための教育に対する公的保障を目指す

東京宣言

ホームページアドレス

http://homepage3.nifty.com/N-forum/tokyo_declaration_nihon.html